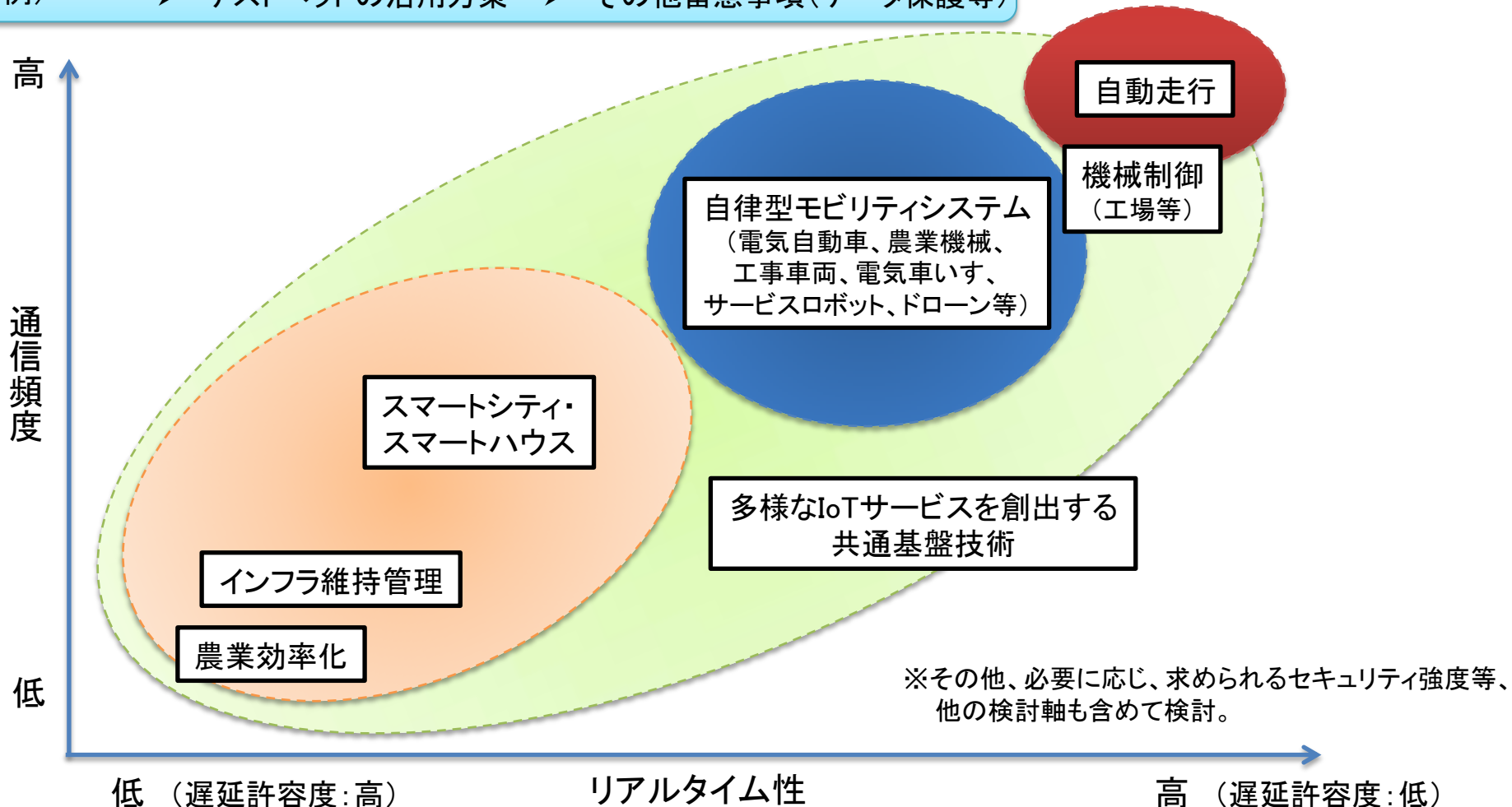


スマートIoT推進フォーラムで検討する出口分野

- IoTのカバーする分野は広く、検討・推進に当たっては、我が国の強みや今後の社会経済への影響を踏まえ、会員の意見を踏まえつつ、プロジェクトの出口分野を重点化し（例えば、自律型モビリティシステム）、技術開発・実証、標準化等を検討。

具体的な検討課題 (例) ➤ 技術開発 ➤ 標準化、国際展開
➤ テストベッドの活用方策 ➤ その他留意事項(データ保護等)



1 審議内容・目的

- 昨年7月に取りまとめられた中間答申において提言された重点研究開発課題のうち、「社会(価値)を創る」分野を中心に、自律型モビリティシステム、次世代IoT等の先端技術分野、さらに、AI・脳研究分野に関する課題について重点的に議論し、具体的なプロジェクトの推進方策、研究人材の育成方策、標準化ロードマップ等について検討する。

2 検討体制

- 技術戦略委員会(主査:相田 仁 東京大学大学院教授)の下に、自律型モビリティシステム、次世代IoT等の先端技術分野の技術開発等に関する課題を検討する「先端技術WG」を設置するとともに、AI・脳研究分野の技術開発等に関する課題を検討する「AI・脳研究WG」を設置する。
- 研究人材の育成方策、標準化ロードマップ等については、技術戦略委員会において検討を行う。

3 スケジュール

- 平成28年3月目途に中間取りまとめ
- 同年7月目途に第2次中間答申

世界最先端の「社会全体のICT化」(ソーシャルICT革命)による先進的な未来社会の実現 →新たな価値の創造、社会システムの変革



ICTは国の持続的発展と安全・安心を確保するための基盤であり、次の5年間において、国及びNICTは基礎的・基盤的な研究開発をしっかりと進めていくことが必要。

新たなIoT時代に対応した世界最先端のテストベッドを整備し、最新の研究開発成果をテストベッドとして研究機関やユーザー等に開放することで先進的な研究開発と実証を一体的に推進。

未来社会を開拓する世界最先端のICT

社会を

観る

社会を

繋ぐ

社会(価値)を

創る

フィードバック

◆ センシング & データ取得基盤分野

- 電磁波センシング(超高性能レーダー等)
- センサーネットワーク(IoT2.0等)
- センサー・ソーシャルデータ取得・解析

◆ 統合ICT基盤分野

- コア系(光通信基盤等)
- アクセス系(モバイルNW技術等)

◆ データ利活用基盤分野

- ビッグデータ解析(人工知能等)
- ユニバーサルコミュニケーション(自動翻訳等)
- アクチュエーション(自動制御等)

社会(生命・財産・情報)を
守る

◆ 情報セキュリティ分野

◆ 耐災害ICT基盤分野

未来を
拓く

◆ フロンティア研究分野

自律型モビリティシステム、次世代IoT等の推進方策の検討 ～先端技術WGの検討課題～

- 自動走行技術については、内閣府SIP「自動走行」プロジェクトにて、関係省庁が連携・分担して推進。これを支える技術として、総務省は通信ネットワーク技術の開発等を推進（国土交通省においては道路の整備・高度化、経済産業省は隊列走行の研究開発等を推進。）。
- 自動走行技術を実装した自律型モビリティシステム（電気自動車、電動車いす、支援ロボット等）は、高齢者・障がい者の安全・安心な生活、多様な経済活動の生産性確保等に資するため、早期の社会実装が期待。「先端技術WG」では、以下のような課題及びその他の先端的なIoT関連技術に関する今後の推進方策を検討。

【検討課題例】

- ① 自律型モビリティシステムのネットワーク制御における高信頼化、緊急時の自動停止、再起動等の安全対策、衛星測位等も組み合わせた移動の高精度化の実現方策
- ② 自動走行に必要な不可欠な高度地図データベース（ダイナミックマップ）の高効率なリアルタイム更新や各車への高効率情報配信の実現方策
- ③ 車載及び路側の画像センサ等の情報を自律型モビリティシステムに最小の遅延で伝送する次世代IoTネットワークの実現方策

